
映しと移ろい——文化伝播の器と蝕変の実相

目次

序文……………本書への導入にかえて

(5) (1)

◆ 本論文集の基本語彙とその〈文理融通〉への前提的考察

「うつし」と「うつろい」を語るコトバ——「情報通信」から垣間見る

新井菜穂子

1

第1部 《情報伝達》における恒常性と可変性

「天正遣欧使節」——スペイン史料からの再考

滝澤修身

35

見立てと写しのアイヌ戯画——メディアとしての〈夷酋列像〉

白石恵理

55

楊守敬の借用——知的「発見」には誰が署名するか

多田伊織

78

偽作と傑作との〈あいだ〉——一九二八と三一年の日華古典名画展開催の意義再考

範麗雅

94

「コラム」文化伝播の経糸と緯糸——緋（かすり）織り文化の世界史における伝播経路

江口久美

117

第2部 《粹組》と選択的透過性——「バケツ理論」から「ザル理論」へ

ベトナム漆画の誕生——技術と美術の弁証法

二村淳子

131

太鼓台が地域社会の意識を刷新する——「新居浜太鼓祭り」探訪

倉田健太

153

《間——日本の時空間》展——「こと」としての日本の美学

寺本 学

184

「あいだ」から見る「もうひとつ」、これから書かれる歴史

——杉本博司の「歴史の歴史」とその周辺の論考

近藤貴子

203

「コラム」〈あいだ〉をとりもつ仕事——京都芸術センターの取り組みから

山本麻友美

222

「コラム」書画と絵画のあいだ——富山の「竹久夢二画会」と美術ジャーナリスト

九里文子

227

第3部 《インドラ網》——因果律から縁起へ

炎の試練……反植民地主義思想の往還

——A. K. クーマラスワームと柳宗悦との〈あいだ〉を繋ぐもの

稲賀繁美

239

生と死の間——賢治の刹那滅とライプニッツのモノラの時間を思う

金子 務

263

文学における境界（あいだ）と詩的狂気

テレングト・アイトル

282

仏教とキリスト教の〈あいだ〉の象徴——太平洋のマリア観音像を巡って

君島彩子

300

ヤノベ・ケンジ——変容する情報と移り行く形態と

デンニツツア・ガブラコヴァ

318

「ラム」Parasite ポロジテ

糸永・デルクルール 光代

335

第4部 《輪廻転生》——時代錯誤から自己同一性の再定義へ

東洋人アメリカ発見説とその転生——日本の写しとしてのインカ帝国幻想

橋本順光

349

すべてはいまもそこに——オーストラリア先住民族美術と転生する祖霊のソングライン……………中村和恵
 両大戦間のエドゥアール・マネ——生誕百年記念展の転生とアナクロニズム……………藤原貞朗 392 374
 境界者の詩学と民族運動の〈あいだ〉

第5部 《接触界面》 屈曲・吸着・発散

明治期日本における学知の接近・遭遇・発散

——外山正一における社会学の位置を事例として……………鈴木洋仁 445

歴史学と「職場の歴史」との間——第二次大戦後復興期の事例から……………竹村民郎 465

ウエイリー訳『源氏物語』という《接触界面》とジェンダー観の屈折

——ヴァージニア・ウルフとマルグリット・ユルスナールをめぐって……………村中由美子 481

「コラム」 東西文明の《接触界面》としてのキリスト教文学……………相原雅子 497

「コラム」 極東と南米の接触界面——移民船による動植物の〈うつし〉……………根川幸男 507

「コラム」 近代日本における鏡の普及と身体意識の変容

——大正期の洋間と「文明ノ程度」……………戸矢理衣奈 516

第6部 《中動態》 受動でも能動でもなく

イメージが見えてくるとき——存在と現象のあいだの移り行き……………三木順子 531

「語りかける異質性」と能動・受動の二元論を越える契機

——アンガス・ウィルソンのみた英訳版『細雪』の最後の二行……………片岡真伊 547

シュリー・オーロピンド・アーシュラム——アートと生活の間

——アントニン・レーモンドのインド—ボンダイシェリのゴルコンデ宿舍の建築をめぐって……………ヘレナ・チャブコヴァー 574

「コラム」 宣教師の日本語文学——宣教と受容の両方通行……………郭 南燕 595

「コラム」 「ウツワ」作為と無作為の間に陶芸創作の原点を探る……………近藤高弘 602

「コラム」 屍体と祖国——カテブ・ヤシンにおける集合性の詩学……………鶴戸 聡 609

「コラム」 宗教間対話の極枯を越えて——〈中動態〉によって見えてきたもの……………高橋勝幸 620

第7部 《主体の解体》と《相互性》

〈あいだ〉の都市、〈あいだ〉の芸術家

——イスタンブールのパリ人、レオン・バルヴィツレと仕事の周辺……………ジラルデッリ青木美由紀 633

人間と教育のあいだ——映画「ブラックボード」を例に……………宮崎康子 660

日活映画における「自己決定」をめぐるテーマの系譜学……………千葉 慶 676

——中平康・藏原惟繕から神代辰巳への流れ……………春藤 献一 696

「動物保護管理法」による人・犬・猫の接触の変貌……………今泉 宜子 714

——犬・猫の殺処分は如何にしてはじまったのか……………上野 景文 722

「コラム」 洞窟の身体と自己変容——人はなぜ地中の「穴」へと惹かれるのか……………山田 奨治 730

「コラム」 「アニミズム的エートス」と「近代化」の狭間に立たされた日本人……………稲賀 繁美 733

(アニミズムは「ダークマター」)……………

「コラム」 ダウンロード違法化拡大……………

研究会の概要——あとがきにかえて・「書式と書誌についての追記」……………

……………編者 稲賀 繁美 733

研究会実施日程一覧 左(23)

人名索引 左(11)

執筆者紹介 左(5)

欧文要旨 左(1)



◆表紙

夜の川面、京都、冬の白川
撮影：稲賀繁美 2018年12月4日

◆本扉・見返し

曇天をうつす海 瀬戸内海 厳島水道
撮影：稲賀繁美 2019年2月1日

【編者紹介】

稲賀繁美 (いなが しげみ)

1957年東京生まれ、広島育ち。現在は国際日本文化研究センター・総合研究大学院大学・教授、放送大学・客員教授。国際日本文化研究センター・元副所長、総合研究大学院大学・文化科学研究科・元研究科長。

東京大学教養学部教養学科卒。大学院比較文学比較文化専攻・単位取得退学。パリ第7大学博士課程修了（新課程統一博士号）。

主な著書に『絵画の黄昏』（1997）、『絵画の東方』（1999）『絵画の臨界』（2014）の3部作と『接触造形論』（2016）（ともに名古屋大学出版会）、『日本美術史の近代とその外部』（放送大学教育振興会、2018）。

主な日本語編著に『異文化理解の倫理にむけて』（名古屋大学出版会、2000）、『伝統工藝再考』（思文閣出版、2007）、『東方意識』（ミネルヴァ書房、2012）、『海賊史観からみた世界史の再構築』（思文閣出版、2017）。

共編著に *Vocabulaire de la spatialité japonaise*, CNRS Éditions, 2014ほか。

サントリー学芸賞、渋澤クローデル賞特別賞、倫雅美術奨励賞、和辻哲郎文化賞、フランス建築アカデミー出版賞ほかを受賞。

研究関係 論文ほか検索HP：<http://www.nichibun.ac.jp/~aurora/inaga/>（記載内容は2018年まで、2021年まで有効予定）および <http://inagashigemi.jp.org> 【2019年より稼働開始】

映しと移ろい

——文化伝播の器と蝕変の実相

二〇一九年九月二十五日 初版第一刷発行

編者……………稲賀繁美

装幀……………大西宏志

発行者……………橋本孝

発行所……………株式会社花鳥社

<https://kachosha.com/>

〒五三〇〇六四 東京都目黒区下目黒四一十八四〇

電話〇三六三〇三二五〇五

ファクス〇三三七九二二二二三

ISBN9784909832122 著作権は、各執筆者にあります。

組版……………キヤップス

印刷・製本……………モリモト印刷

乱丁本・落丁本はお取り替えいたしません。